

創

—第28回—

別府っ子を応援！

いよいよ梅雨本番。気分は少し下がりが気味。しかしこの雨があるからこそ野菜や穀物も育つ、いずれ温泉にもなる。恵みの雨に感謝です。

さて、私も毎日のように地域で、市民の皆さんのお話を伺います。地域の課題はたくさんあります。今までは比較的高齢者の方の課題が多かつ



別府市長
長野 恭紘

たのですが、最近子どもたちの生活環境も心配です。子どもの貧困問題などです。

私は別府市社会福祉協議会（社協）の会長も兼ねていますが、市で出来ない、足りない部分をいかに民間団体や社協と連携して解決するかを模索してきました。例えば奨学金。市の制度も本年度から更に充実させましたが、残念ながらそれでも足りない。2年前、ある方のご遺志で社協に多額の寄付をいただきました。そのお金を活用して「別府っ子応援事業」をスタートさせます。奨学金をはじめ、部活動、スポーツ、芸術、文化活動を助成し、子ども達の「ヤル気」をサポートします。また、子ども食堂の開設・運営費用の助成やお手伝いなどにも積極的に参加します。子どもたちは私たち共通の宝です。子どもたちの今を守り、サポートすることが、未来のふるさと別府を守ることに繋がると信じています。

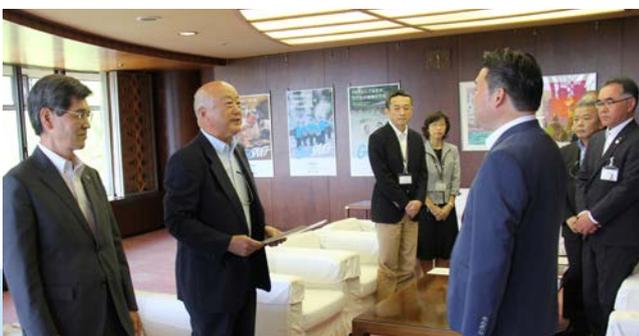
トピックス通信



魅 了するハーモニー—5月30日、第20回記念別府アルゲリッチ音楽祭の「室内楽コンサート～アルゲリッチ Meets フレンズ 響き合う瞬間」がピーコンプラザで開かれました。マルタ・アルゲリッチと国内外で活躍する音楽家との協演のほか、長女のリダ・チェン・アルゲリッチとの親子演奏も行われ、観客は至福の時間を満喫していました。



協 働のまちづくり—5月16日、市職員が地域活動などをボランティアで支援する「地域応援隊」が発足しました。人口減少、少子高齢化などで地域活動にも影響が出ている中、市職員が積極的に地域活動に参加し、協働で地域活性化につなげていきます。



入 湯税の使途を提言—有識者や宿泊施設関係者で構成する「別府のみらい検討会議」は5月24日、入湯税引き上げに伴う基本的な使途を示した提言書を市長に提出しました。別府市ではこの提言を踏まえ、新たな組織を設置し、具体的な使途の議論を進めます。



世 世界の温泉地が拓く地域発展の可能性—世界16か国と国内自治体から約1,000人が参加した「世界温泉地サミット」が5月25日～27日、ピーコンプラザで開催されました。観光や医療・健康・美容、エネルギーについての事例発表・分科会が行われ、温泉資源の活用や温泉地の更なる発展について意見が交わされました。